

いずれも応募者多数の場合は抽選となります。企画によって、定員や対象年齢、応募締切が異なります。ご確認ください。  
また、対象年齢の記載のないものは、未就学児(3歳)以上とさせていただきます。ご了承ください。

トーク

トーク「身体のゆくえ」

講師：西條茜さん(美術家/陶芸家)

7/13(土) 14:00-15:00

定員20名 応募締切 7/4(木)、結果通知 7/5(金)

西條茜さんは今回展示する陶芸作品《ホームクルス》(2021年)の作者です。陶芸と聞くと、食器など、机のうえに並ぶものを連想するひが多いかもしれませんが、西條さんは、からだと陶芸につながりを見出し、管や穴がたくさんある抽象的なかたちのものや、自分よりも大きなサイズの作品を発表しています。土がもたらす創作のインスピレーションについてお話をうかがいます。

**講師PROFILE** 1989年、兵庫県生まれ。京都市立芸術大学大学院修了。陶磁器素材の特徴ともいえる内部の空洞と表面の艶やかな質感から「身体性」をキーワードに、陶彫作品及びそれらに息や声を吹き込むサウンドパフォーマンスを発表。また一方で世界各地にある窯元などに滞在し、地元の伝説や史実に基づいた作品も制作している。

トーク「お茶とテロワールをめぐる時間の旅」

講師：沙里さん(香り研究/調香師)

岩田文明さん(月ヶ瀬健康茶園)

7/28(日) 17:30-18:30

定員40名 応募締切 7/18(木)、結果通知 7/19(金)

お茶は香りを楽しむものでもありますが、そこにも土は深く関係しています。岩田文明さんは、ご自身の茶園の土壌の複雑さを分析し、その特徴に適した品種を栽培しています。この探究は600万年前、月ヶ瀬に琵琶湖があったとされる時代にまでさかのぼること。このトークでは、調香師である沙里さんとともに、土とお茶の関係、そして香りと味わいにアプローチします。

**講師PROFILE(沙里)** 植物等から香りを抽出し、風土や季節のうつろい、記憶や五感の気づきを、香りによって引き出すことを探求している。日本の伝統的な香道作法と西洋の香水文化を融合させた香会、聞香を主軸に、音楽、写真、料理とのコラボレーションや体験を通じて、生への問いを重ねている。ホテルや店舗における香りのデザイン、合成香料を用いない香水、化粧品の調香を国内外で担当。

**講師PROFILE(岩田文明)** 1974年、奈良・月ヶ瀬生まれ。2001年から茶園を引き継ぎ、「お茶がお茶らしく育つこと」を掲げ、自然環境のリズムに委ねたお茶づくりに取り組む。

トーク「土(つち)と土地(とち)の未来」

講師：管啓次郎さん(詩人/明治大学教授)

赤阪友昭さん(写真家/映画監督)

8/10(土) 17:30-18:30

定員40名 応募締切 7/30(火)、結果通知 7/31(水)

土は豊かな食物をもたらす、様々な芸術作品へと実を結びますが、その一方で土地の所有をめぐる争いが起きたり、どんなに長く暮らした人や動物も、一方的に追い出されてしまったりすることがあります。このトークでは、土がまとう危うさや政治性に向き合いながら、生態系の未来に光を見ようと活動する管啓次郎さんと赤阪友昭さんをお招きします。

**講師PROFILE(管啓次郎)** 1958年生まれ。ブラジル滞在記『コ

ロンブスの犬』が最初の本。ポリネシア世界の紀行文『斜線の旅』で読売文学賞受賞。詩人として世界各地の詩祭で招待朗読。訳書にル・クレジオ『ラガ』、サン＝テグジュペリ『星の王子さま』、エイミー・ベンダー『レモンケーキの独特なさびしさ』、パティ・スミス『Mトレイン』などがある。明治大学理工学部教授。同大学院「場所、芸術、意識」プログラム教授。

**講師PROFILE(赤阪友昭)** 1963年生まれ。阪神淡路の震災後、辺境での暮らしの取材をはじめ。雑誌への寄稿や国際文化交流プロジェクトの企画・実施、映像作品の制作等その活動は多岐にわたる。星への祈りをテーマにしたドキュメンタリー映画『銀鏡SHIROMI』では初監督を務め、2021年度東京ドキュメンタリー映画祭人類学・民俗映像部門にてグランプリを受賞する。

上映会

上映会『うつわ 食器の文化』

8/1(木) 19:00-19:45

8/4(日) 19:00-19:45

各回定員40名 応募締切 7/18(木)、結果通知 7/19(金)

うつわをめぐる生活文化と、それを作る手わざに光を当てる作品です。縄文土器に始まる、土をつかっていたうつわに加え、木を用いる技術も登場します。スキル・アカデミーでは、2021年から2022年まで「木」をテーマにし、2023年から現在まで「土」をテーマに活動してきました。「木」と「土」が、うつわの姿で人の食卓を豊かにしてきた歴史を、民族文化映像研究所所蔵の本作を通して、たどりたいと思います。

(1975年公開/日本語/41分/監督 姫田忠義/委嘱 近畿日本ツーリスト日本観光文化研究所/所蔵 民族文化映像研究所)

上映会『新しい野生の地—リワイルディング』

8/8(木) 19:00-20:40

8/10(土) 19:00-20:40

各回定員40名 応募締切 7/30(火)、結果通知 7/31(水)

土は、人間の手で新たに作り出すことができないものですが、人が見放した土地でも自然が自ら回復したケースがあります。この作品は、オランダの自然保護地区を舞台に、動植物の美しさを通して土地と生態系の回復のちからをとらえたドキュメンタリーです。首都アムステルダムから50kmにある自然保護地区「オーストファーデルスプラッセン」の四季が、「リワイルディング(再野生化)」の希望を教えてください。

監督：ルーベン・スミット、マルク・フェルケルク、製作：EMS FILMS、提供：チームRewilding (2013年公開/オランダ語/97分/カラー/シネスコ/オランダ)

いずれも応募者多数の場合は抽選となります。企画によって、定員や対象年齢、応募締切が異なります。ご確認ください。  
また、対象年齢の記載のないものは、未就学児(3歳)以上とさせていただきます。ご了承ください。

## ワークショップ

### ワークショップ「土からインクを作ろう」

講師：三原聡一郎さん(メディアアーティスト)

7/15(月・祝) 13:00-14:00  
17:00-18:00

各回定員15名、対象年齢12歳以上  
応募締切 7/7(日)、結果通知 7/8(月)

土を砕いて、ふるいを使って、超微細な粉末を取り出して、メディウムと混ぜるとインクのように使うことができます。この土のインクを使ってシルクスクリーンという印刷方法を試してみましょう。講師のメディアアーティストの三原聡一郎さんは、自然現象や物質を様々に変換させるアート作品をつくり続けています。震災やパンデミックの経験をふまえた土との出会いとインスピレーションについてもお話いただけます。

**講師PROFILE** 1980年、東京都生まれ。物質循環や生命現象の「芸術」への読みかえを様々な試みた活動を展開している。東日本大震災を機にコンポストと微生物燃料電池の実践を始めて以来、土に魅せられ、その想像力を共有するプロジェクトを展開している。

### ワークショップ「ミミズからみたせかい」

講師：井原宏路さん(アーティスト)

7/21(日) 16:00-17:00  
18:00-19:00

各回定員10名、対象年齢10歳以上  
応募締切 7/7(日)、結果通知 7/8(月)

大小さまざまなビルが立ち並ぶ銀座にも、その地中にはミミズの世界があります。ミミズは地表に糞を排泄し、それが小さな塚になるので「糞塚」と呼ばれます。景観を害すという見方もありますが、井原宏路さんはその糞塚の形に魅せられ、ミミズが作った作品としてとらえています。井原さんと一緒に、糞塚、すなわちミミズの世界の入り口を見つけに出かけましょう。

**講師PROFILE** 1988年、大阪府生まれ。2011年多摩美術大学美術学部彫刻学科卒業。2013年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。生物が創り出す痕跡や副産物などを彫刻にする行為から、生態系と循環についてみつめなおす作品を制作する。2017-18年ポーラ美術振興財団在外研修員としてイタリアにて研修。

### ワークショップ「お茶の香りを聞く、土の香りを聞く」

講師：沙里さん(香り研究/調香師)

7/28(日) 13:00-14:30  
15:00-16:30

各回定員15名、対象年齢10歳以上  
応募締切 7/18(木)、結果通知 7/19(金)

日本語には香りを嗅ぐではなく“聞く”と表現してきた感性があります。また茶を通じた古い遊びのなかには、茶を飲み、それぞれの銘柄や産地などを当てる闘茶があります。茶の香りを通じて、見えてくる土。土の香りを通じて、聞こえてくる時間。調香師・沙里さんのガイドのもと、香りの「ききあわせ」を通じて、皆で「香り」を鑑賞し、聞くところから、茶畑の土壌の豊かさに思いを馳せます。

**講師PROFILE** 植物等から香りを抽出し、風土や季節のうつろい、記憶や五感の気づきを、香りによって引き出すことを探求している。

日本の伝統的な香道作法と西洋の香水文化を融合させた香会、聞香を軸に、音楽、写真、料理とのコラボレーションや体験を通じて、生への問いを重ねている。ホテルや店舗における香りのデザイン、合成分香料を用いない香水、化粧品の調香を国内外で担当。

### 言葉と遊ぶワークショップ

#### 「土の言葉をみんなで掘る」

大崎清夏さん(詩人)

8/4(日) 13:00-15:00  
16:00-18:00

各回定員10名 対象年齢12歳以上  
応募締切 7/18(木)、結果通知 7/19(金)

スキル・アカデミーでは、自然素材をめぐるスキルのひとつとして、詩のワークショップを開催してきました。土に内包されるイメージは、どんな言葉で表現できるでしょうか。展示作品を味わいながら、大崎さんと一緒に言葉の世界を耕して、土にまつわる詩を書いてみます。

**講師PROFILE** 1982年、神奈川県生まれ。詩集『指差すことができない』で中原中也賞受賞。著書に『目をあけてごらん、離陸するから』『踊る自由』『新しい住みか』ほか。朗読劇の脚本や絵本の文をはじめ、さまざまな形で詩の種を蒔いている。

## パフォーマンス

### パフォーマンス「感触を踊る。その終わり、その先へ」

演出・構成：倉田翠さん(演出家、ダンサー)

8/18(日) 17:00-18:00

定員40名 応募締切 8/8(木)、結果通知 8/9(金)

展示会期の最終日、土のないところでその感触を思い出すというパフォーマンスを行います。出演するのは春のワークショップで土に触れた経験を共有するみなさんです。身体に残っている微かな振動をたよりに、忘れ去られていく小さな記憶をたぐりよせます。

**講師PROFILE** 1987年、三重県生まれ。akakilike主宰。京都造形芸術大学卒業。自身や他者と向かい合い、そこに生じる事象を舞台構造を使ってフィクションとして立ち上がらせることで「ダンス」の可能性を探求している。セゾン文化財団セゾン・フェロー I。2024年4月より、まつもと市民芸術館 芸術監督(舞踊部門)。

## 公開制作

### 公開制作

保良雄さん(現代美術家)

8/3(土)、4日(日)、5日(月)、9日(金)、10日(土)、11日(日)

上記の期間、開館時間の中で不定期に行われます。  
申込は不要です。

**PROFILE** 1984年、滋賀県生まれ。日常の中で不便なものが切り捨てられている事に注目し、テクノロジー、生物、無生物、人間に優劣をつけずに並列に並べ、存在を存在として認めることを制作の目的としている。